

# 新ごみ処理施設建設候補地検討委員会が

## 最終結果報告をブロック会議会長[犬山市長]に提出

二次検討評価項目・評価点一覧表

二次検討項目		評価点					
評価項目	評価の考え方	候補地A	候補地B	候補地C	候補地D		
自然環境 (法令関係)	自然環境						
	ごみ運搬時に発生するCO2排出量	5	5	5	1		
社会環境	周辺施設・人口	自然環境保全地区等・墓地・高さ制限等	1	5	5	3	
		教育施設までの距離と施設の重み	1	1	2	5	
		福祉施設までの "	3	1	1	5	
		病院までの "	5	1	1	5	
		都市計画公園等まで "	1	1	1	5	
	周辺道路状況	廃棄物処理施設まで "	5	1	1	5	
		2 km以内の自治会人口	1	1	1	5	
		通学路と搬入路の重複	1	4	4	5	
		維持管理費	周辺道路の交通量調査	1	1	1	5
			ごみ運搬費	5	5	5	1
経済性	建設費	用地取得費	4	1	5	5	
		造成工事費	5	5	5	1	
		搬入道路整備費	1	5	1	4	
		取水工事費	5	4	5	1	
地元住民理解度		-	-	-	-		

\* 候補地 A...江南市中般若地内(愛岐大橋の上流、木曾川左岸の畑・山林など)  
 候補地 B...大口町 環境美化センター(現ごみ焼却施設)のある敷地内  
 候補地 C...扶桑町 環境美化センター(現ごみ焼却施設)の西側の田  
 候補地 D...犬山市 入鹿池の小牧寄り 採石場跡地の山林  
 \*5段階評価...点数の高いほうが評価も高い。

**地元住民へのきちんとした説明を!**  
 日本共産党議員団は、新処理施設の候補地選定にあたっては、徹底した情報公開と地元住民への説明会の開催を要求してきました。この間自治体の広報などを通じてパブリックコメントによる意見の公募は行われませんが、正式な説明会は一度も開催されず、住民不在で候補地の検討が行われてきました。大口町や、江南市の候補地のある地域では白紙撤回を求める声も上がっています。候補地の選定にあたっては、住民説明会を繰り返し行い、十分意見聴取を行うとともに、パブリックコメントに寄せられた不安や疑念、積極的な提案等を尊重すること。選定過程をオープンにし、情報を公開すること。経済性

犬山市・江南市・扶桑町・大口町の2市2町の新ごみ処理施設建設候補地検討委員会は、1月21日に第13回の検討委員会を開催し、最終結果を取りまとめ、広域化第一小ブロック会議会長の田中犬山市長に報告書を提出し、解散しました。  
 報告書を受け取った田中会長は、今後2市2町の首長で構成する「小ブロック会議」に報告し、地元説明会も行い、候補地を絞り込んでいきたい」と挨拶しました。  
 検討委員会の最終結果は、別表の評価項目による評価点と「まとめ」で構成されており、特定の候補地を選定したものではありません。検討結果に基づき、住民説明会などを経て、最終候補地が絞り込まれていくこととなります。

### 検討結果のまとめ(原文)

各候補地について、本検討委員会において、慎重に検討した結果は次の通りです。

1. 自然環境に関する評価項目においては、候補地B、候補地Cが2項目とも高い評価[5]となり、他の2候補と比較して優位性があります。
2. 社会環境に関する評価項目においては、候補地Dがすべての項目で高い評価[5]となり、他の3候補と比較してかなりの優位性があります。
3. 経済性に関する評価項目においては、候補地A、候補地B、候補地Cが3項目以上で高い評価[5]となり、その結果として、候補地Dが他の候補地と比較して低い評価となりましたが、これは維持管理費(ごみ運搬費)における評価が低いためと思われます。

なお、候補地Bと候補地Cについては、近接地関係であるため、3つの項目において、ほぼ同じ評価となりました。

以上のように、3つの評価項目においては、特定の候補地が相対的優位性を持つという評価結果を示すことができました。

この結果を踏まえると、3つの評価項目の優先順位を決定すること、地元住民理解度を把握することが課題となります。

最終候補地の選定にあたっては、当委員会の検討結果を尊重され、第1小ブロック会議として、適地を選定されることを申し添えます。

や効率性のみでなく何よりも人間尊重、環境と安全性を重視したものとすることが大切です。  
 そのためにも「尾張北部地域第1小ブロックごみ処理広域化実施計画」を見直し、徹底したごみの資源化と減量を推進し、生ごみのたい肥化施設など一極集中を排除し、施設のコンパクト化を進めることが必要です。  
 皆さんのご意見もぜひお寄せください。

